

コンパス薬局瀬谷 スキルアップ勉強会

2016. 4. 25 小西航

第54回 『カナグル錠』

第一三共株式会社 松井彩乃さん

参加者：作佐部、近藤、川原、阿部、青野、木本、小西

糖尿病は、血糖値（血液中のブドウ糖濃度）が病的に高い状態をさす病名である。ひとことに血糖値が高いと言っても、無症状の状態から、著しい喉の渇き・大量の尿を排泄する状態、さらには意識障害、昏睡に至るまで様々であるが、これらをすべてまとめて、血糖値やヘモグロビン A1c 値が一定の基準を超えている場合を糖尿病という。

カナグルは、2型糖尿病患者様が服用する薬で、血糖コントロールできる選択的 SGLT2 阻害薬である。

【効能・効果】

2型糖尿病

【用法用量】

通常、成人はカナグリフロジンとして 100mg を 1 日 1 回朝食前又は朝食後に経口服用する。

【特徴】

選択的 SGLT2 阻害薬と呼ばれる新しい糖尿病治療薬である。スルホニルウレア系など従来からのインスリン分泌促進薬とは作用機序が違い、その作用は SGLT2、阻害作用にもとづき腎臓での糖再吸収を抑制する。そして、血糖コントロールが改善され、ヘモグロビン A1c の低下につながり、インスリンとは関係なく作用するので、効きすぎによる低血糖を起こしにくいと考えられている。また、ブドウ糖を体外に排出させるので、体重減少効果も期待できる薬剤である。単独ではやや弱いので、他の糖尿病治療薬と併用することもある。インスリン注射薬をふくめ、 α -グルコシダーゼ阻害薬、チアゾリジン薬、スルホニル尿素薬、速効型インスリン分泌促進薬、ビッグアニド薬など、すべての糖尿病治療薬との併用が可能。カナグルは選択的 SGLT2 阻害剤であるが、SGLT1 も阻害するという作用も併せ持つ。

【副作用】

国内第Ⅱ相用量設定試験及び第Ⅲ相試験において、1629 例中 474 例（29.1%）953 件の副作用（臨床検査値の異常も含む）が認められた。主な副作用は、無症候性低血糖、低血糖症、頻尿、血中ケトン体増加、便秘等であった。（承認時）

【考察】

新しい薬なので、本当に合併症を予防できるのか、長生きにつながるのかなど長期的な予後改善効果については、まだよく分かっていない。長期服用時の有効性や安全性の検証は今後の課題といえる。

【質問事項】

Q、SGLT1 の阻害作用は、他の SGLT2 選択的阻害薬にもあるのか？

A、カナグルのみの作用になる。

Q、薬価はいくらか。

A、205.5 円。